

川づくり会議みえ10周年記念 第56回勉強会

「100年後の子どもたちに残し伝える山、川、海」を開催しました。

川づくり会議みえ 久世憲志

1. はじめに

「川づくり会議みえ」は、自然豊かで子どもが遊べる「魅力ある川づくり」を実現するため、2003年（平成15年）7月に発足し、10周年を迎えました。この間、会員、市民、並びに各界の多くの方々にご参加ご協力を頂き、隔年開催の「川のワークショップみえ」5回を含む55回の勉強会などを開催してきました。

設立10周年を迎え、当会設立の契機をお作りいただきました藤田光一さん(元三重河川国道事務所長)をお迎えし、これまでの10年間をふりかえるとともに、「100年後の水環境のありよう」を視野に、私たちは今後の10年をどのように考え、行動して行くか、考えることとしました。



2. 川づくり会議みえ10周年記念 第56回勉強会の概要

平成25年11月24日（日）13時45分から、三重県総合文化センター大研修室にて開催し、77名の参加を頂きました。また、17時15分から、同センター内レストランにおいて懇親会を35名の参加で、開催しました。

（1）祝辞

当会設立時の代表幹事をして頂いた、三重大学理事・副学長の朴恵淑先生から、祝辞を頂きました。

先生からは、会の設立に当たり、川、三重、人、命を会の名前に取り入れたかったけれど、川を代表としてネーミングした経緯がある。このことから、今後とも、川が気になっていれば山を考えるように「地域をつなぐ」、1たす1が2になり、4、8、100になるように「人をつなぐ」、川がよくて、山がよくて、海がよくても命がなければならぬように「命をつなぐ」をテーマに取り組んでいって欲しいとのお言葉を頂きました。



(2) 活動報告

川上聡代表幹事から、藤田光一さん(元三重河川国道事務所長)の声掛けがきっかけとなり当会が誕生したいきさつ、5回の「川のワークショップみえ」を含む55回の勉強会の概要等を紹介し、関わって頂きました方々への感謝を申し上げます。また、若い会員を如何に確保し、会の活動を活性化していくかが今後の課題であると述べました。



(3) 記念講演

国土技術政策総合研究所の藤田光一研究総務官から、「気候、国土、川、そして人～来し方を見つめ、これからを考える」と題して、講演をいただきました。

講演では、人々が低平地に出て耕作地を増やし人口増につながったが、一方で洪水・渇水による災害のリスクを増大させてしまった。ここ数十年の河床掘削で平均2m川底を下げっており、総量は国の直轄管理区間で12億立米にもなる。これまでの画一的な河川整備も、ちょっとした工夫で自然豊かな川になる。今後の地球温暖化の影響、地球規模の大災害の発生を見たとき、自然の外力には上限がなく、被害は完全には防げない。川づくり手法の改善も一定必要であるが、「住まい方」(含；他のインフラとの連携)、「逃げ方しのぎ方」と併せて進める必要があるとコメントされました。



(4) 事例発表

「宮川右岸堤防（桜堤）の改修について」（三重河川国道事務所 長澤宏和さん）

平成16年9月の台風により洪水被害が発生した宮川の改修を進めるに当たり、桜の名所や歴史的地物に配慮して、学識者や地元住民等で構成する協議会を開催し、計画検討をしている。平成26年度から改修工事に着手予定で、フォローアップの場も設けながら事業を進めていきたい。

「魚と子どものねっとワークの取り組み」（魚と子どものネットワーク 新玉拓也さん）

子どもの頃、自然の中でいろいろな体験をした。今の子どもたちにもいろんな体験をしてほしい。自分が育った場所をいつまでも残したいとの思いから、地元で会を立ち上

げた。

会の目的は、「地域の財産として、魚が棲める水環境を保全する」「地域の自然の魅力を次世代に伝える」「地域や分野を越えたネットワークを築き、地域のコーディネーターの役割を果たす」こと。今後とも情報を幅広く発信し、取り組みの輪を広げていきたい。

「新しい里海創生によるまちづくり」（志摩市農林水産部 浦中秀人さん）

志摩市は漁業が盛んな地域である。単にきれいな海ではなく、豊かな海を再生することが必要で、そのためには山から海に至るさまざまな生き物のつながりが再生・保全されているまちづくりが求められた。このため、志摩市総合計画の一環として、志摩市里海創生基本計画を策定し、取り組んでいる。

今後とも、人と自然環境が共生するまちづくりを関係者が一体となって進めることで、「自然が豊かな志摩市の食材を食べたい、遊びに行きたい、住んでみたい」と感じてもらえるようにしていきたい。

（５） ディスカッション

川上代表幹事が進行役を務め、朴先生、藤田さん、長澤さん、新玉さん、浦中さんと会場で、ディスカッションを行いました。

（以下、「川づくり会議みえに期待することは？」への意見を抜粋）

長澤さん：今回の会議もそうですが、個別ではなく総合的に皆が協働していくことが大切と感じており、そんなつなぎ役を担って欲しい。

新玉さん：川に関して、市民とか団体の一人一人が、思いを発信する場でもあって欲しいと思うし、行政の治水水事業に関して、易しく解説してくれるような存在であるべきなのかなと考えている。



朴先生：私は２点申し上げたい。

川づくり、地域づくり、人づくりは、ロマンとそろばんと思っています。そのような長い年月をかけて創り上げなければならないものには、やはりロマンというものが必要であると思う。そしてロマンだけではだめで、そこにはそろばんというものがある。そのロマンとそろばんをどういう風にしてバランスを考えるのかというと、そういった意味で、川づくり会議みえと言ったところが果たしていくところがあると思います。もう一つは、「個」から出発するのはよい

のですけれど、「個から環をつくる」という意味で、その担い手が必要だと思っています。この川づくり会議みえは、この2つの意味で「礎」になって欲しいと思っています。

藤田さん：東日本大災害が起こって、大変な努力で復旧・復興に取り組まれている。それを見ていて考えることは、やはり火事場の馬鹿力では、限界があるよね、普段から、こういうことがあったら、こうしておきたいねという仕組みがないと難しいと思う。川づくり会議みえに期待することは、要するに三重という地で練りこむということ、それを普段からやって、いざという時に何か手を持っておく、いろいろな蓄積があると何かあった時に役立つのではないかと最近思っています。いろいろ練りこみながら、最後、みんなで共通の絵を描いていくことが、結果として、とても良いことに繋がるのではないかと期待しています。

浦中さん：志摩市でも、大きな河川はないけれども川は海に繋がっているということで、山から海への恵みということで、取り組んでいる。今後、川づくり会議みえのメンバーと活動を広げていければと考えています。

3. 今後に向けて

いろいろな方々のご支援を得ながらの10年間でした。そして、さらなる10年をと、背中を押していただきました。社会や環境の変化を見極めながら、これからも試行錯誤を続けていきたいと考えています。皆様のご理解とご支援をよろしくお願いします。

